Ⅴ．発掘調査技術等研修会の記録

平成 15 年度　発掘調査技術等研修会　開催報告

2003年12月４日(木)と５日(金)に、愛知県教育委員会と愛知県埋蔵文化財センターの共催で「平成15年度発掘調査技術等研修会」をおこなった。今年度の研修会のねらいは、自然科学を専門にしていない愛知県内の埋蔵文化財担当者が、発掘調査や報告書作成に取り組む際に参考となる例が学べるようにと、テーマとして「年代測定法」を取りあげた。日程は以下の通りで、4日(木)には41名、５日(金)には44名とたいへん多くの参加者が集まった。

12月４日(木)
会場：愛知県埋蔵文化財センター２階研修室
講義１　火山灰分析・・・・・・・・・・・・
古澤　明氏(古澤地質調査事務所)
講義２　古地磁気法・・・・・・・・・・・・
藤根　久氏(株式会社パレオ･ラボ)
講義３　年輪年代法・・・・・・・・・・・・
光谷拓実氏(奈良文化財研究所)
12月５日(金)
会場：名古屋大学年代測定総合研究センター
講義４　放射性炭素年代測定法・・・・・・
中村俊夫氏
(名古屋大学年代測定総合研究センター)
タンデトロン２号機と施設の見学
名古屋大学博物館の見学

４日(木)の最初に講義していただいた古澤明氏(古澤地質調査事務所)からは、考古学において古くから実施されてきている火山灰分析について、原理と有効性に関して最新の研究成果を交えて話があった。藤根　久氏(株式会社パレオ・ラボ)は、考古学のみならず地球科学的なプレート・テクトニクスも含めて、なぜ磁場の変化から年代が推定できるのか講義いただいた。光谷拓実氏(奈良文化財研究所)は、氏が作成した長さ十数ｍにもおよぶ年輪年代チャートを前に、長年にわたるデータ集積の経緯を熱く語られた。

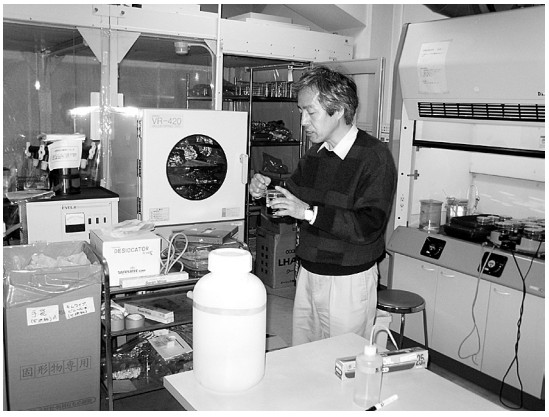
５日(金)には名古屋大学に会場を移し、中村俊夫氏(名古屋大学年代測定総合研究センター)から放射性炭素年代測定法について、その原理を図とともにわかりやすく解説いただき、合わせてタンデトロン２号機と施設を見学させていただいた。間近でみるタンデトロン２号機の巨大さに、驚嘆の声があがっていた。午後には2000年４月に開館した名古屋大学博物館を見学し、研修会は終了した。

折しも、2003年５月には国立歴史民俗博物館の研究グループにより放射性炭素年代測定法を用い、弥生時代の始まりについて従来よりも約500年古い数値の発表があった。そのためか、年代測定法に対する関心も高く多くの方々に参加いただき、両日とも会場が満員になるほど盛会であった。

最後に、お忙しい折にも関わらずご講義いただいた講師の先生方をはじめ、受け付けや資料配布などのお手伝いをいただきました当センター調査研究員の皆さまに厚くお礼申し上げます。

(鬼頭　剛)


名古屋大学での風景



試料調整について説明する中村俊夫氏